

令和5年 新春を迎えて



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、平素より市政各般に格別のご支援、ご協力を賜っておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、1月早々に新型コロナウイルスの「オミクロン株」急拡大による「第6波」の到来、7月にはオミクロン株の変異株であるBA.5による「第7波」が大流行、これまでの感染の勢いをはるかに上回るスピードで全国的に急拡大しました。また、秋から冬にかけては、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行へ懸念が高まり、厚生労働省は「第8派」への危機感を示し、依然として医療機関や保健所などの機能がひっ迫する事態が続いています。昼夜を問わず、患者の治療にあたっておられる医療従事者の方々をはじめ、関係機関の方々の献身的なご尽力に対し、心より感謝を申し上げますとともに、市民の皆さまにおかれましては、これまで同様、引き続き、基本的な感染防止対策である手洗いやこまめな換気、状況や場面に応じた適切なマスクの着用など、コロナに感染しない・感染させない行動を心がけていただきますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルスが国内で確認されて早くも3年が経過しようとしています。このコロナ禍により、当たり前と思われてきた常識や価値観は大きく変容し、暮らしや働き方を変えてしまいました。私たち地方自治体も例外ではなく、今後は、「コロナとの共生」を主眼に、急激な社会の変化に柔軟に対応し、複雑化する行政課題や多様な行政ニーズに即応していかななくてはならないと考えております。

本市におきましては、コロナを恐れ過ぎず、コロナからの脱却に向け、少しずつ、まちに元気と活力を取り戻すべく、感染防止対策に万全を期す中で、イベント等の賑わいの創出、子育てしやすいまちづくりなど、多くの施策に取り組んで参ります。

同時に、大規模自然災害を迎え撃つ準備も早急に進めなくてはなりません。南海トラフ巨大地震については、政府においてマグニチュード8~9クラスの地震が30年以内に発生する確率は70~80%（2020年1月時点）とされており、年々迫ってきている状況です。防災に対する意識は時とともに薄れがちですが、常に注意を欠かさず備えることが大切であります。市民の皆さまには、平常時から、自分自身の身は自分で守る「自助」を基礎とし、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」につきましても積極的にコミュニケーションを図っていただきたいと思っております。本市による「公助」では、特定避難困難者の解消に向け、避難施設の整備など着実に事業を実施して参ります。

このように、本年も引き続き、防災・減災対策をはじめ、子育て支援、地域経済の活性化等、小松島市が抱えるさまざまな課題に対し、アイデアを尽くし、誰もが快適で暮らしやすいまちづくりを推進し、「特色あるまちづくり」をより一層すすめて、「選ばれるまち小松島」を目指し、全庁一丸となって全力で取り組んで参りますので、今後とも、皆さまの変わらぬご指導とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びとなりますが、本年が市民の皆さまにとりまして、幸多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

令和5年1月1日 小松島市長 中山 俊雄